

平成30年8月2日

# 平成30年上半期における 特殊詐欺の状況について

警視庁犯罪抑止対策本部

# 目 次

## 1 被害状況

(1) 特殊詐欺全体	・・・ 1
(2) オレオレ詐欺	・・・ 4
(3) 架空請求詐欺	・・・ 8
(4) 融資保証金詐欺	・・・ 11
(5) 還付金等詐欺	・・・ 11
(6) 振り込め類似詐欺	・・・ 13
(7) 犯行予兆電話の通報状況	・・・ 15
(8) 犯行利用電話の種別	・・・ 15

## 2 検挙状況

(1) 本犯検挙状況	・・・ 16
(2) 助長犯検挙状況	・・・ 18

## 3 未然防止等の状況

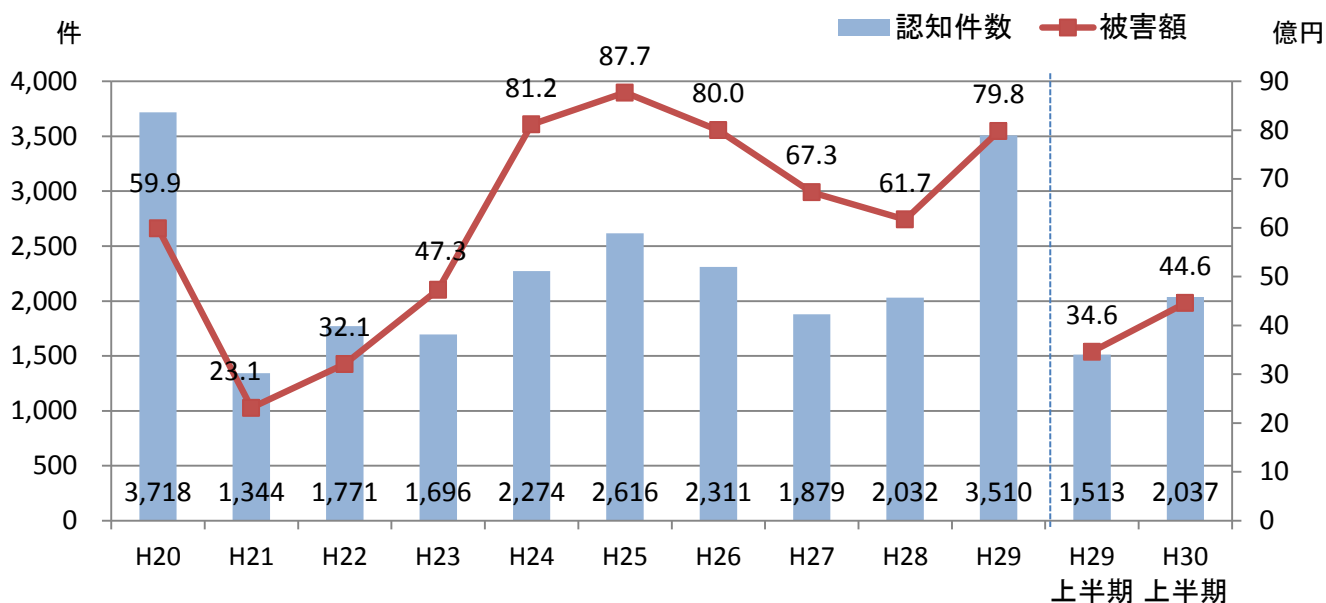
(1) 未然防止(全体)状況	・・・ 19
(2) 金融機関による未然防止状況	・・・ 20
(3) 被害金の調達(全体)状況	・・・ 20
(4) 金融機関における調達状況	・・・ 21
(5) 金融機関窓口における阻止率	・・・ 21
(6) 未然防止の好事例	・・・ 23

※ なお、本統計に関する割合の数値は、四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがあります。

# 1 被害状況

## (1) 特殊詐欺全体

特殊詐欺：認知状況の推移



※ 特殊詐欺とは、振り込み詐欺（オレオレ詐欺、架空請求詐欺、融資保証金詐欺及び還付金等詐欺の4類型）とそれ以外の振り込み類似詐欺をいう。

※ 振り込み類似詐欺は、平成23年から計上

特殊詐欺：平成30年上半期における認知状況

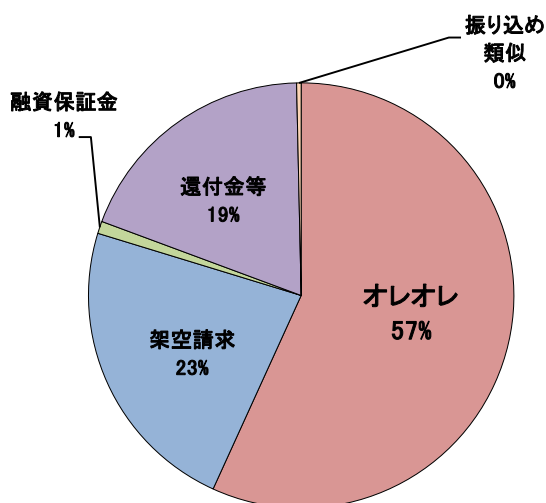
	オレオレ		架空請求		融資保証金		還付金等		振り込み類似		合計	
	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	うち既遂	
認知件数	1157件	1055件	467件	459件	19件	19件	387件	387件	7件	7件	2,037件	1,927件
前年比	+309件	+289件	+160件	+161件	-7件	-7件	+77件	+77件	-15件	-11件	+524件	+509件
増減率	+36%	+38%	+52%	+54%	-27%	-27%	+25%	+25%	-68%	-61%	+35%	+36%
被害額(約)	30億8,968万円		8億0,475万円		3,196万円		5億1,721万円		1,731万円		44億6,091万円	
前年比(約)	+7億6,016万円		+1億5,593万円		+1,788万円		+1億3,702万円		-6,854万円		+10億0,244万円	
増減率	+33%		+24%		+127%		+36%		-80%		+29%	
平均被害額(既遂)	293万円		175万円		168万円		134万円		247万円		231万円	

※ 被害額は、カード詐欺被害におけるその後の引出額を含む（以下同じ。）。

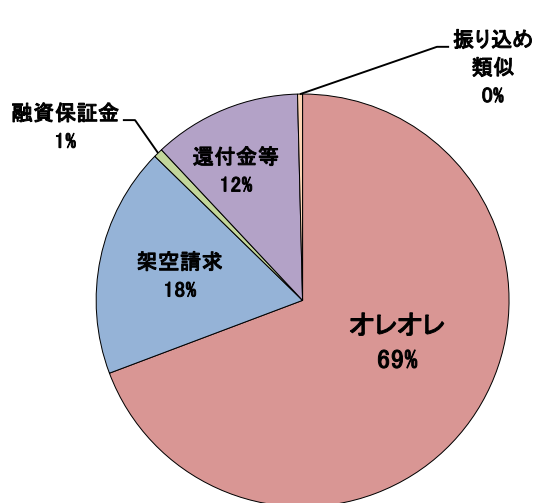
○ 平成30年上半期の被害については、認知件数2,037件、被害額約44億6,091万円で、前年と比べ、認知件数は524件(35%)、被害額は約10億244万円(29%)増加した。

## 特殊詐欺：類型別（認知件数及び被害額）

【認知件数(2,037件)】

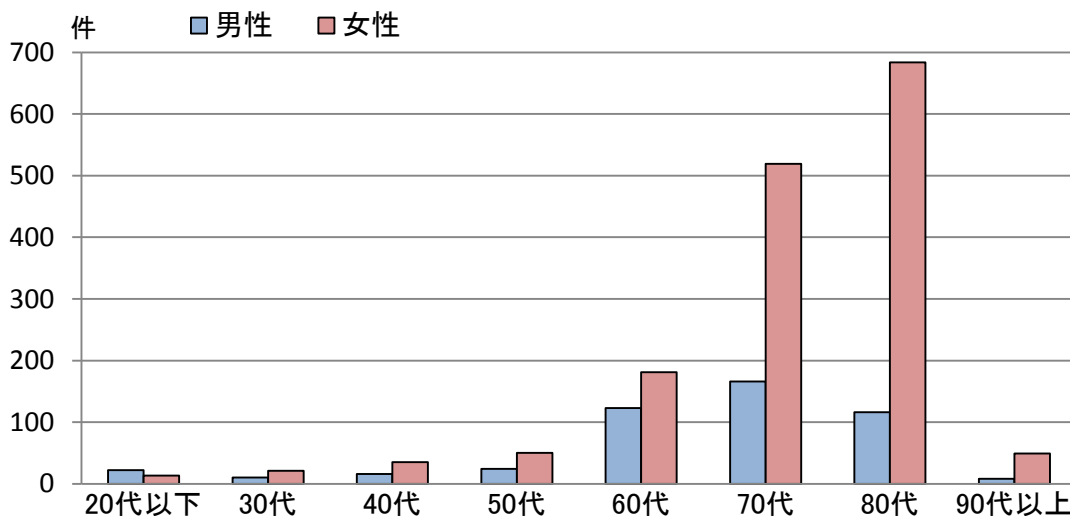


【被害額(約44億6,091万円)】



○ オレオレ詐欺が、認知件数の57%を占め、被害額の69%を占めている。

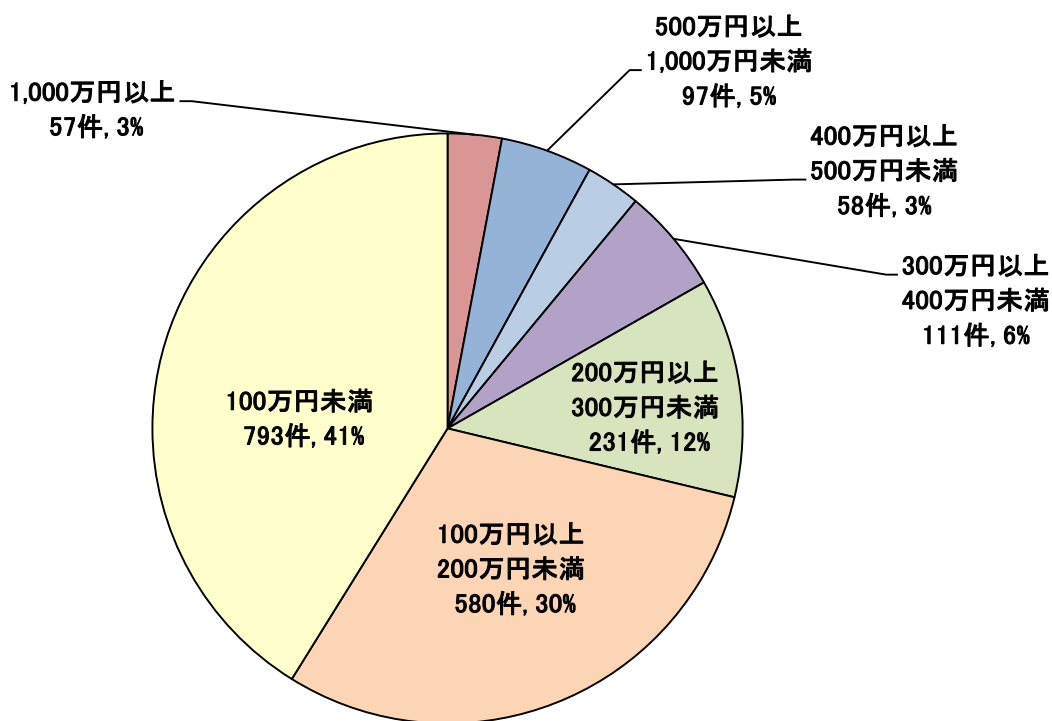
## 特殊詐欺：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	22	10	16	24	123	166	116	8	485
女性	12	22	35	50	181	519	684	49	1,552
合計	34	32	51	74	304	685	800	57	2,037

○ 被害者の76% (1,542人) が、70代以上、男女別では、76% (1,552人) が女性である。

## 特殊詐欺：被害額別認知件数（未遂を除く1,927件）



- 200万円未満の被害が71%を占める一方、1,000万円以上の高額被害も依然として多発している。

## 特殊詐欺：被害金等受取方法別被害状況

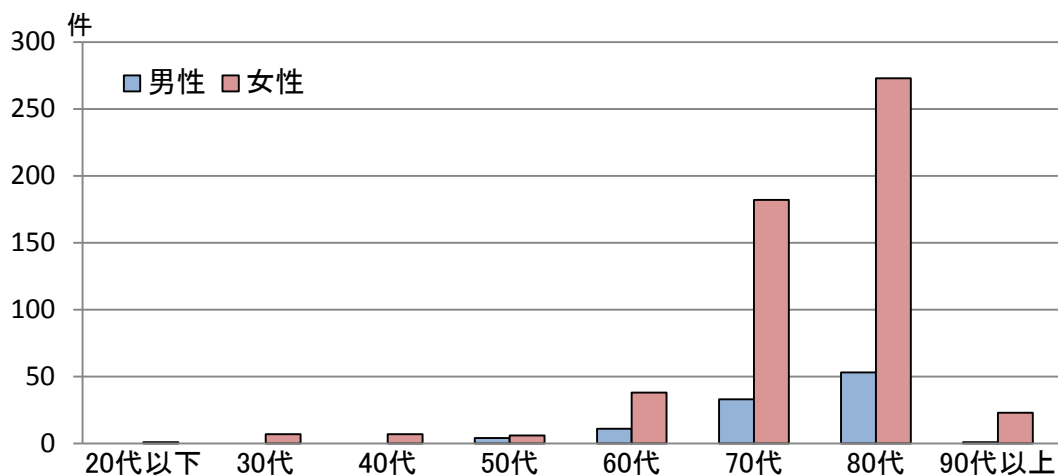
	振込	現金手交	カード手交	送付	電子マネー等	ATM決済	その他不明	合計
平成30年 上半期	442	633	758	23	152	21	8	2,037
割合	22%	31%	37%	1%	7%	1%	1%	100%
平成29年 上半期	380	493	408	27	199	0	6	1,513
割合	25%	33%	27%	2%	13%	0%	0%	100%

- ※ 電子マネー等～有料サイト利用料名目等で、コンビニエンスストア等で販売されている電子マネーを購入させ、シリアル番号を聞き出す手口及びコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を操作させ、決済を代行させて現金をだまし取るコンビニ決済等の手口
- ※ ATM決済～PAY-EASY（ペイジー）という日本マルチペイメントネットワーク運営機構が運営する決済サービスで、コンビニエンスストア以外の金融機関等に設置されているATM（現金自動預払機）等を利用させ、現金を支払うことで現金をだまし取る手口

- 送付及び電子マネー等による被害が減少し、振込、現金手交及びカード手交のほか、ATM決済による被害が増加している。

## (2) オレオレ詐欺

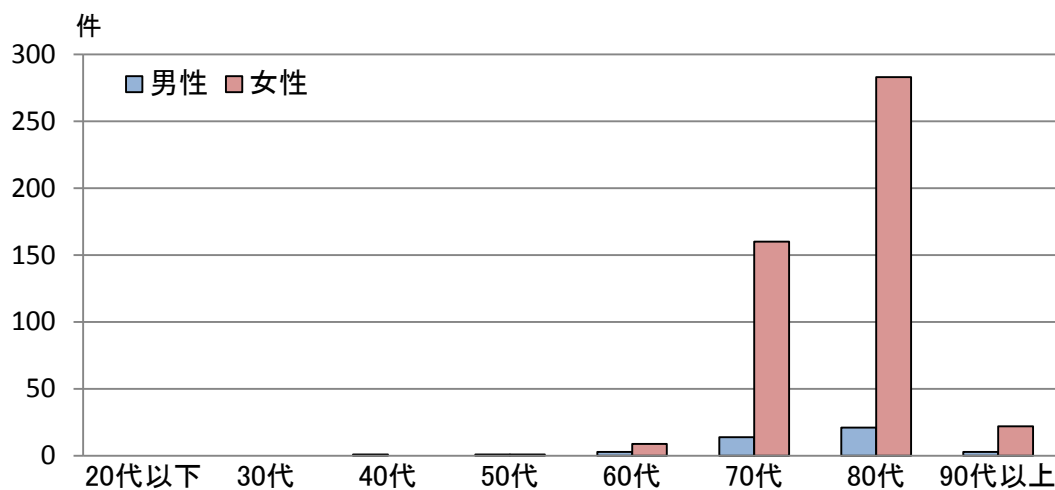
オレオレ詐欺(現金詐取)：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	0	4	11	33	53	1	102
女性	1	7	7	6	38	182	273	23	537
合計	1	7	7	10	49	215	326	24	639

- オレオレ詐欺(現金詐取)では、被害者の88%(565人)が70代以上、男女別では、84%(537人)が女性であり、いずれも、特殊詐欺全体(70代以上76%・女性76%)と比べ、高くなっている。

オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取)：年代別・男女別認知件数

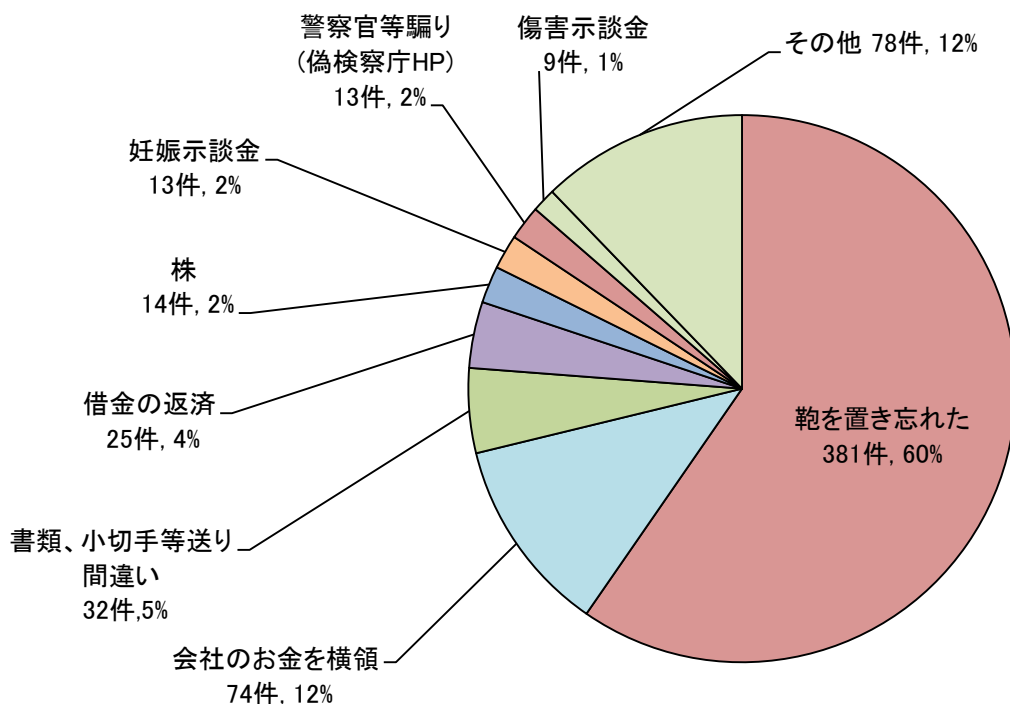


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	1	1	3	14	21	3	43
女性	0	0	0	1	9	160	283	22	475
合計	0	0	1	2	12	174	304	25	518

- オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取)では、被害者の97%(503人)が70代以上、男女別では、92%(475人)が女性であり、いずれも、特殊詐欺全体(70代以上76%・女性76%)と比べ、高くなっている。

オレオレ詐欺(現金詐取)：欺もう文言(だまし文句)別の認知件数

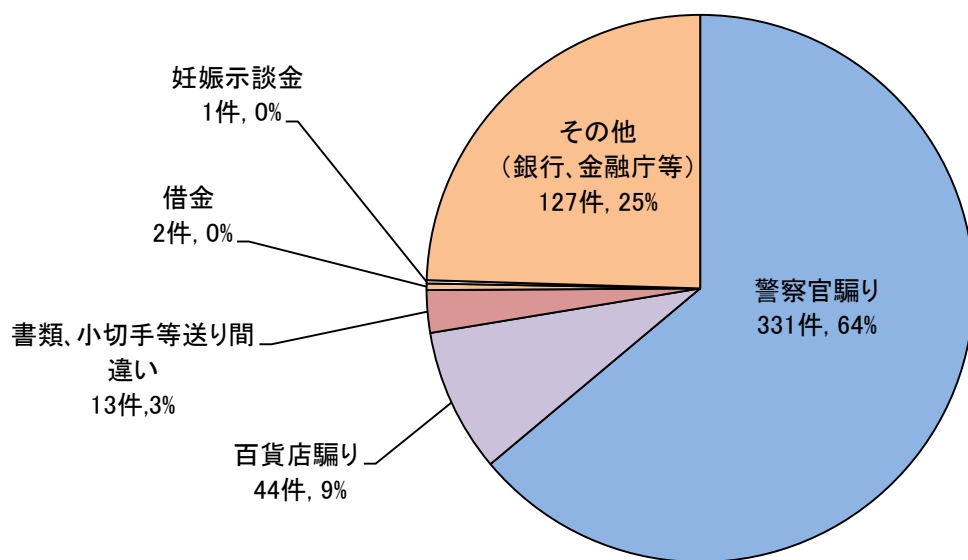
【認知件数639件】



○ 「鞆を置き忘れた」を口実としたものが、60%を占めている。

オレオレ詐欺(キャッシュカード等詐取)：欺もう文言(だまし文句)別の認知件数

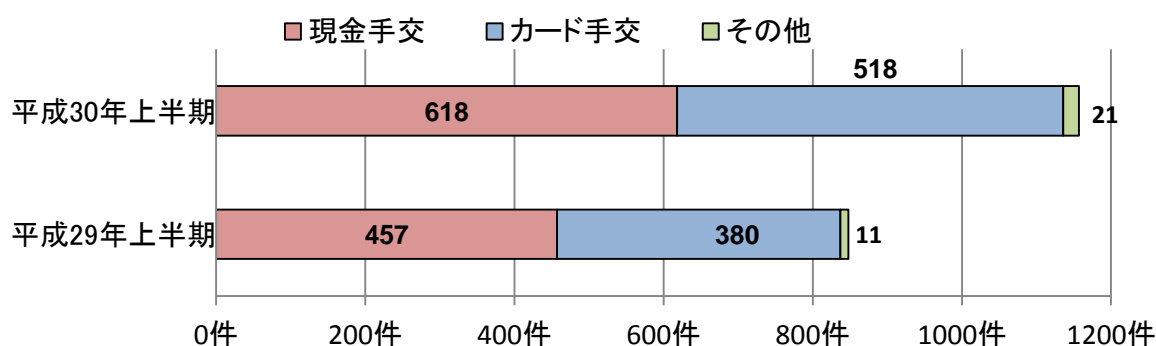
【認知件数 518件】



○ 「警察官騙り」及び「百貨店騙り」を口実としたものが、73%を占めている。

## オレオレ詐欺：被害金等受取方法別被害状況

	振込	現金手交	カード手交	送付	電子マネー	その他不明	合計
平成30年上半期	21	618	518	0	0	0	1,157
割合	2%	53%	45%	0%	0%	0%	100%
平成29年上半期	9	457	380	1	0	1	848
割合	1%	54%	45%	0%	0%	0%	100%



○ 現金をだまし取る手口とともに、キャッシュカードをだまし取る手口も増加している。

	オレオレ詐欺							
	総数	現金詐取			キャッシュカード等詐取			
		鞆忘れ	その他	小計	警察官騙り	百貨店騙り	その他	小計
件数	1,157	381	258	639	331	44	143	518
割合	100%	33%	22%	55%	29%	4%	12%	45%
前年比	+309	+27	+144	+171	+150	-88	+76	+138

※ 現金詐取

平成29年上半期 468件 → 平成30年上半期 639件 (+171件、+37%)  
 (※現金詐取=現金手交+振込+送付+その他不明等)

※ キャッシュカード等詐取

平成29年上半期 380件 → 平成30年上半期 518件 (+138件、+36%)  
 (※キャッシュカード等詐取=カード手交)



### 【オレオレ詐欺の主な手口】

#### ○ 鞆忘れ

親族等を装い、「病院や駅、喫茶店のトイレなどに会社で必要な大事な物（小切手など）が入った鞆を置き忘れて（盗まれて）困っている。」等と言い、現金をだまし取る手口

#### ○ 会社の金横領

親族等を装い、「会社のお金を使って株、又は投資に失敗してしまった。今日、監査が入る。穴埋めのお金を貸してくれないか。」等と言い、現金をだまし取る手口

#### ○ 妊娠示談金

親族等を装い、「不倫相手の女性を妊娠させてしまい、慰謝料や弁護士費用を払わなければならない。」等と言い、現金をだまし取る手口

#### ○ 傷害示談金

親族等を装い、「交通事故を起こしてしまい示談金が必要。」「相手に怪我をさせてしまい治療費や示談金が必要。」等と言い、現金をだまし取る手口

#### ○ 会社の大事な書類、又は荷物等を違う場所に送り間違える

親族等を装い、「会社で使う大事な書類、又は荷物、郵便物などを違う場所に送り間違えてしまい、お金が必要になった。」等と言い、現金やカードをだまし取る手口

#### ○ あなた名義のカードが犯罪に使われている

警察官、又は大手百貨店、量販店関係者を装い、「あなた名義のカードで買い物をしている者がいる。カードはお持ちですか。偽造されている可能性があるので、カードと暗証番号を変更しましょう。」等と言い、キャッシュカードやクレジットカードをだまし取る手口

### 【新たに発生している手口】

#### ○ 偽検察庁ホームページに誘導

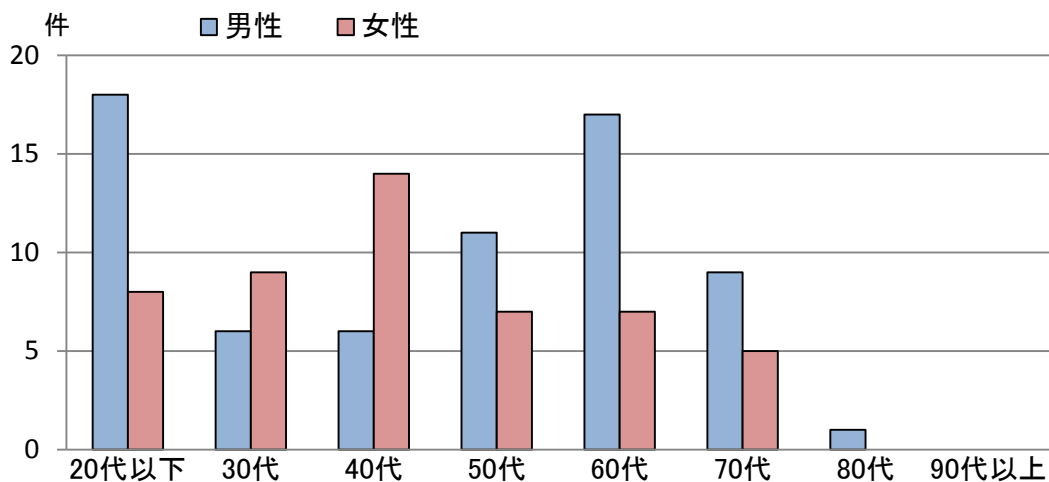
検察庁、警察庁、又は捜査一課・捜査二課などを装い、「あなたの口座が犯罪に利用され、被害者から告訴されている。指定するアドレスをインターネットで検索して確認してください。」と直接、携帯電話に電話してきて、偽検察庁ホームページに誘導し、被害者が自身の名前を入力すると、本人の名前が表示され、さらに「訴えを取り下げるにはお金が必要だ。」等と言い、現金をだまし取る手口

#### ○ 郵便受け（ポスト）利用

警察官を騙り、被害者から現金やキャッシュカードなどをだまし取る際、「我々警察とあなたが接触している姿を犯人が見ているかもしれません。犯人に気付かれないようにするためには逮捕するまで接触しないほうがいいでしょう。キャッシュカード（又は現金）は、封筒に入れて自宅のポストに入れて置いてください。後で取りに行きます。」等と言い、その後、数分の間に、犯人が回収していく手口

### (3) 架空請求詐欺

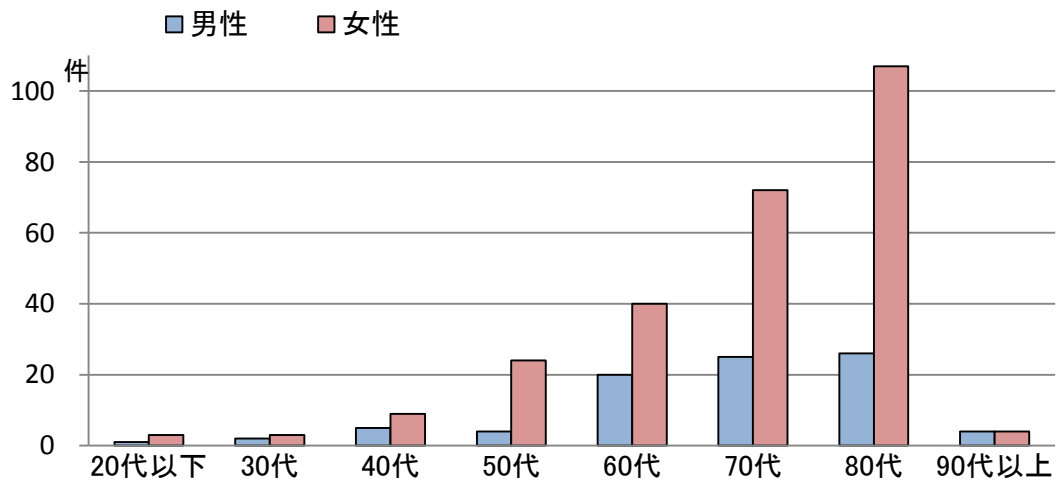
架空請求詐欺(有料サイト利用料名目)：年代別・男女別認知件数



	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	18	6	6	11	17	9	1	0	68
女性	8	9	14	7	7	5	0	0	50
合計	26	15	20	18	24	14	1	0	118

○ 架空請求詐欺(有料サイト利用料名目)は、男女を問わず各年代で被害が発生している。

架空請求詐欺(有料サイト利用料名目以外)：年代別・男女別認知件数

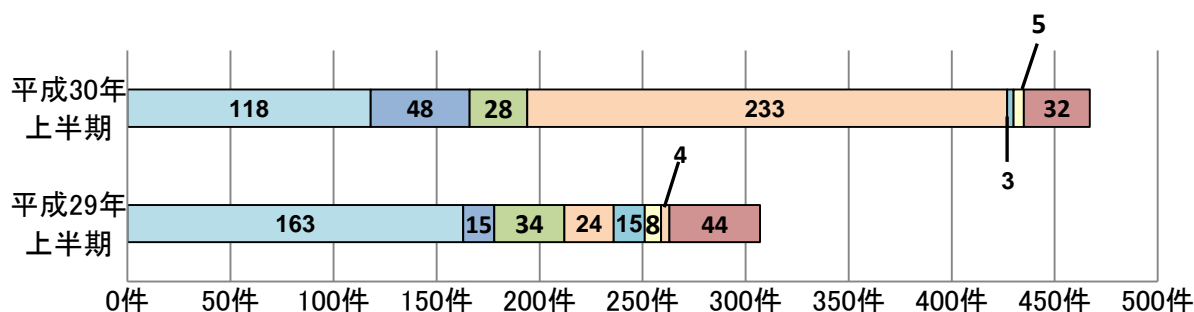


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	1	2	5	4	20	25	26	4	87
女性	3	3	9	24	40	72	107	4	262
合計	4	5	14	28	60	97	133	8	349

○ 架空請求詐欺(有料サイト利用料名目以外)では、被害者の85%(298人)が60代以上、男女別では、75%(262人)が女性である。

## 架空請求詐欺：欺もう文言（だまし文句）別認知件数

- 有料サイト利用料      □ 訴訟      □ サービス利用料      □ 還付金(カード手交)
- 金融商品等取引      □ 情報購入      □ 個人情報漏洩等      □ その他



- 架空請求詐欺は、有料サイト及びサービス利用料名目が減少し、特に医療費等の還付金名目でキャッシュカードを手交する被害が急激に増加している。

### 架空請求詐欺(有料サイト利用料名目)：被害金等受取方法別被害状況

	振込 (ネットバンク含む)	現金 手交	カード 手交	送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他 不明	合計
平成30年上半期	6	1	0	5	60	37	8	1	118
割合	5%	1%	0%	4%	51%	31%	7%	1%	100%
平成29年上半期	13	3	0	5	136	5	0	1	163
割合	8%	2%	0%	3%	83%	3%	0%	1%	100%

- 前年と比べ、電子マネーが減少したもののコンビニ及びATM決済の割合が増加している。

### 架空請求詐欺(有料サイト利用料名目以外)：被害金等受取方法別被害状況

	振込	現金 手交	カード 手交	送付	電子 マネー	コンビニ 決済	ATM 決済	その他 不明	合計
平成30年上半期	18	13	240	17	31	24	4	2	349
割合	5%	4%	69%	5%	9%	7%	1%	1%	100%
平成29年上半期	23	21	27	13	56	2	0	2	144
割合	16%	15%	19%	9%	39%	1%	0%	1%	100%

- 前年と比べ、振込及び電子マネーが減少したもののカード手交による被害が急激に増加している。

	架空請求詐欺							
	総数	現金詐取			キャッシュカード等詐取			
		有料サイト	その他	小計	有料サイト	還付金	その他	小計
件数	467	118	109	227	0	233	7	240
割合	100%	25%	23%	49%	0%	50%	1%	51%
前年比	+160	-45	-7	-52	±0	+209	+3	+212

※ 現金詐取

平成29年上半期 279件 → 平成30年上半期 227件 (-52件、-19%)

(※現金詐取=現金手交+振込+送付+電子マネー+コンビニ決済+ATM決済+その他)

※ キャッシュカード等詐取

平成29年上半期 28件 → 平成30年上半期 240件 (+212件、+757%)

(※キャッシュカード等詐取=カード手交)

【架空請求詐欺の主な手口】

○ 訴訟示談金・和解金・調査費（はがき）

「総合消費料金に関する訴訟最終告知のお知らせです。」などと記載のはがき等を投函した上で、「最終告知です。裁判取り下げ最終期日を経て訴訟を開始いたします。支払わないと不動産物の差し押さえを強制的に履行させていただきます。」等と言

い、現金をだまし取る手口

(特にコンビニエンスストア等のレジ及びマルチメディア端末等で、買物決済を代行させる『コンビニ決済』が多い。)

○ 有料サイト利用料名目

メールで有料サイトの利用料金等が未納であると伝え、「利用料金や延滞料金等を支払わないと訴訟になる。」等と言

い、現金をだまし取る手口  
(特にコンビニエンスストア等で「アマゾンカード又はWebマネー」等を購入させ、13桁のシリアル番号等を犯人に伝える『電子マネー』が多い。)

○ サービス利用料名目

メールで会員登録料金等が未納であると伝え、「登録料金や延滞料金等を支払わないと訴訟になる。」等と言

い、現金をだまし取る手口  
(有料サイト利用料名目に同じく、『電子マネー』が多い。)

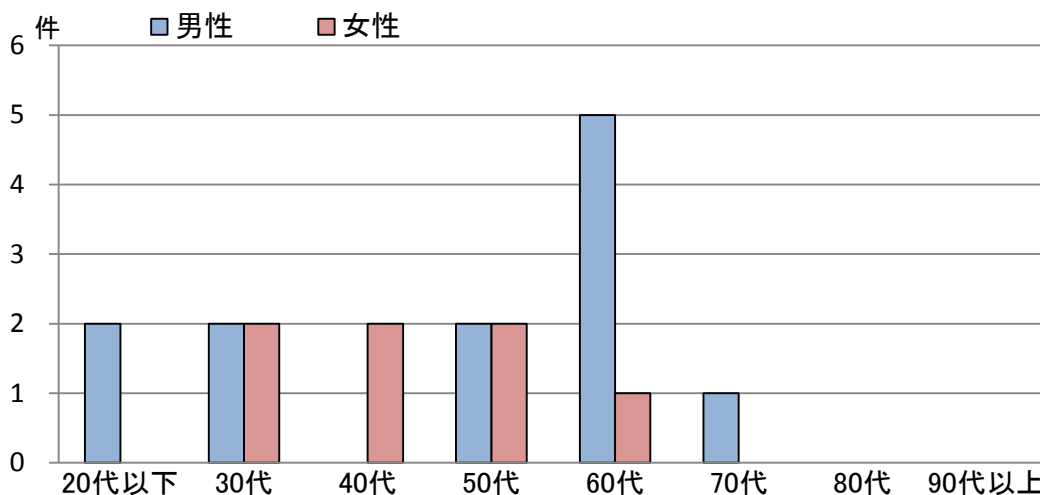
○ 医療費、又は累積保険料の還付金

電話で区、市役所職員及び銀行員等を騙り「医療費、又は累積保険料の過払い金がありますので、返金致します。今お持ちのキャッシュカードはどちらの銀行口座になりますか。それでは、こちらで手続き致します、〇〇銀行の職員がカードを取りに伺いますので、渡してください。」等と言

い、キャッシュカードをだまし取る手口

## (4) 融資保証金詐欺

融資保証金詐欺：年代別・男女別認知件数

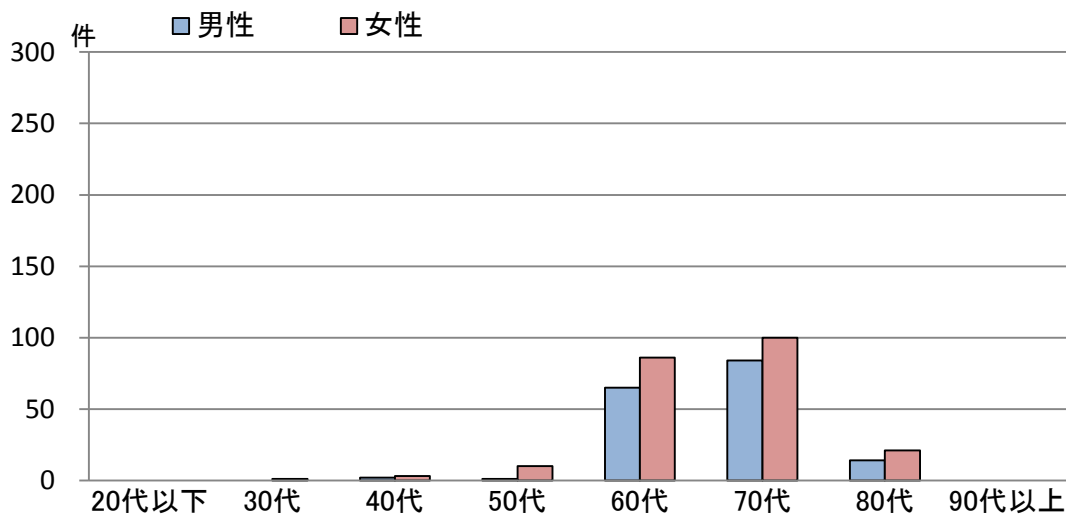


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	2	2	0	2	5	1	0	0	12
女性	0	2	2	2	1	0	0	0	7
合計	2	4	2	4	6	1	0	0	19

○ 20代から70代までの各年代で被害が発生しており、男女別では、63%（12人）が男性である。

## (5) 還付金等詐欺

還付金等詐欺：年代別・男女別認知件数

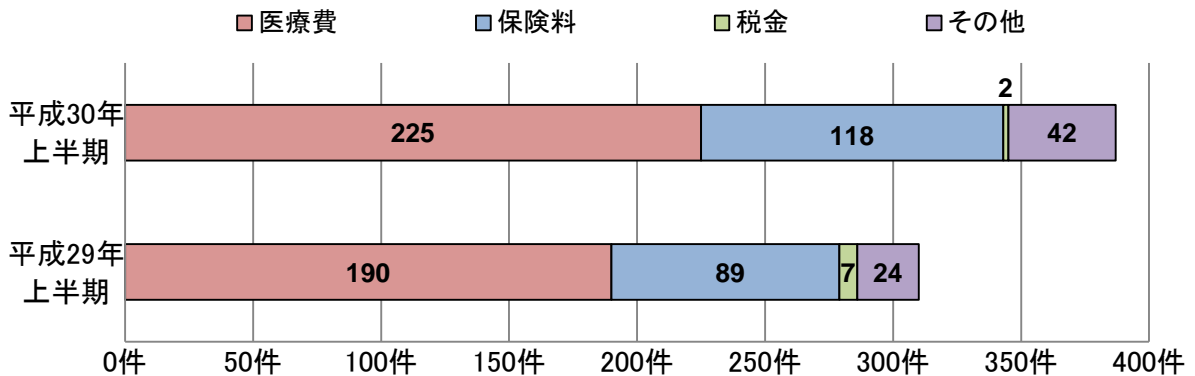


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	0	0	2	1	65	84	14	0	166
女性	0	1	3	10	86	100	21	0	221
合計	0	1	5	11	151	184	35	0	387

○ 被害者の96%（370人）は、60代以上で、男女別では、57%（221人）が女性で、43%（166人）が男性であり、前年に比べ、女性が減少し、男性が増加した。

## 還付金等詐欺：還付名目別認知件数

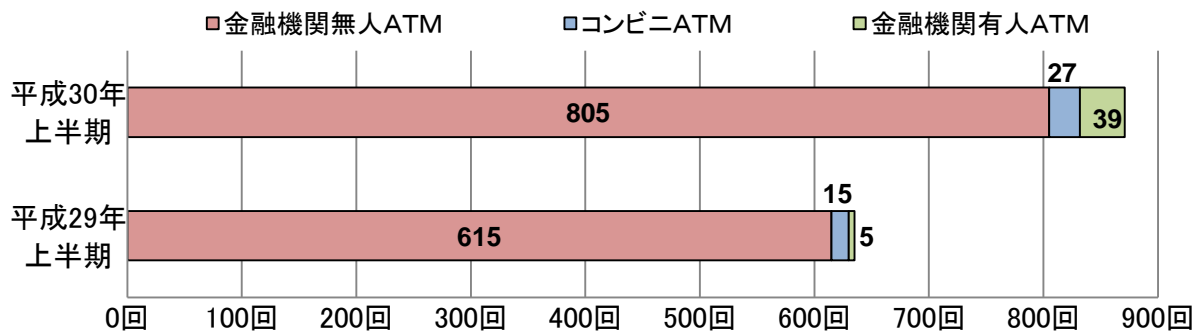
	医療費	保険料	税金	その他	合計
平成30年上半期	225	118	2	42	387
割合	58%	30%	1%	11%	100%
平成29年上半期	190	89	7	24	310
割合	61%	29%	2%	8%	100%



- 医療費の還付名目が58%を占め、最も多くなっている。

## 還付金等詐欺：場所別振込回数

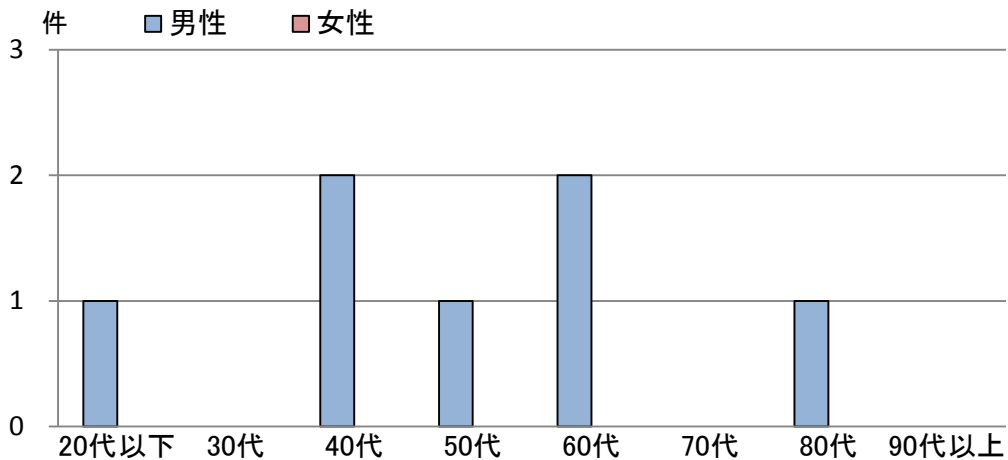
	金融機関 無人ATM	コンビニ ATM	金融機関 有人ATM	その他 不明	合計
平成30年上半期	805	27	39	0	871
割合	92%	3%	4%	0%	100%
平成29年上半期	615	15	5	0	635
割合	97%	2%	1%	0%	100%



- 還付金等詐欺における振込回数は、前年に比べ、236回増加している。
- 「金融機関無人ATM」での振込みは、全体の92%を占めている。
- 金融機関無人ATM設置場所別の振込回数では、駅(構内及び駅前)が634回(73%)と最も多く、次にショッピングモール内の106回(12%)となっている。

## (6) 振り込め類似詐欺

振り込め類似詐欺：年代別・男女別認知件数

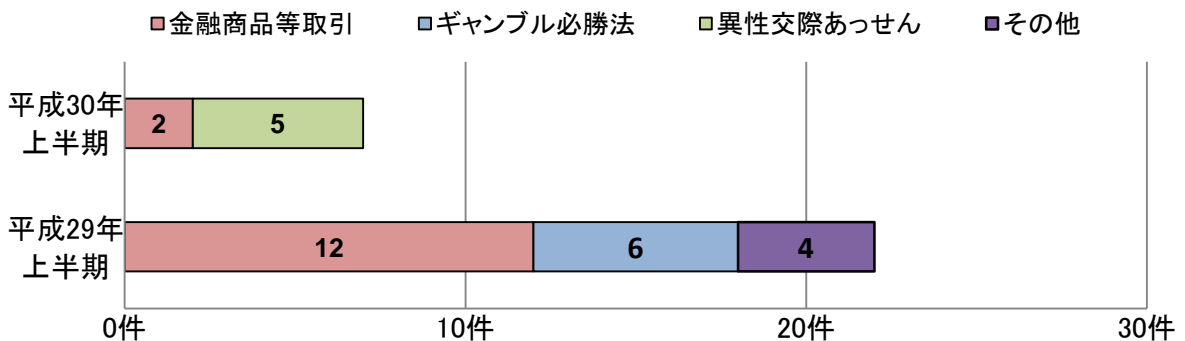


	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
男性	1	0	2	1	2	0	1	0	7
女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	0	2	1	2	0	1	0	7

○ 被害者の男女別では、100%（7人）が男性である。

振り込め類似詐欺：欺もう文言（だまし文句）別認知件数

	金融商品等取引	ギャンブル必勝法	異性交際あつせん	その他	合計
平成30年上半期	2	0	5	0	7
割合	29%	0%	71%	0%	100%
平成29年上半期	12	6	0	4	22
割合	55%	27%	0%	18%	100%



○ 振り込め類似詐欺は、前年に比べ、減少している。

○ 金融商品等取引及びギャンブル必勝法名目が、減少したものの、異性交際あつせん名目が増加し、全体の71%を占めている。

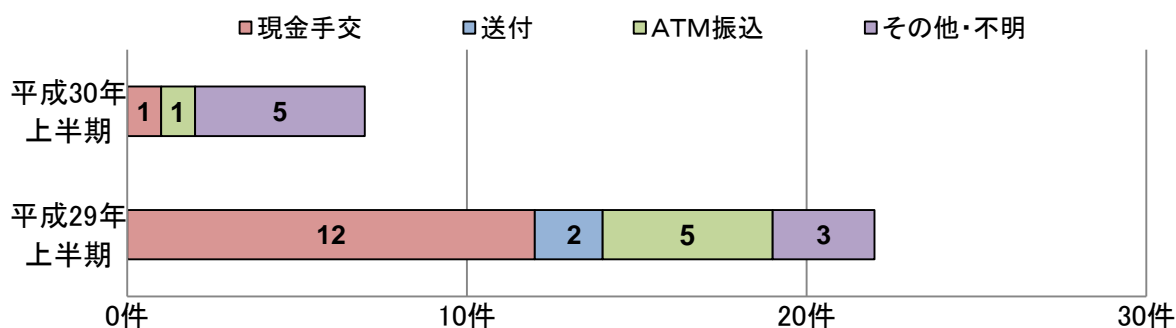
## 振り込め類似詐欺：年代別認知件数

欺もう文言	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	合計
金融商品等取引	0	0	0	0	1	0	1	0	2
割合	0%	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	100%
ギャンブル必勝法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
異性交際あっせん	1	0	2	1	1	0	0	0	5
割合	20%	0%	40%	20%	20%	0%	0%	0%	100%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

- 金融商品等取引名目は、60代以上で被害が発生しており、異性交際あっせん名目では年代に関係なく、60代まで被害が発生している。

## 振り込め類似詐欺：被害金等受取方法別被害状況

	現金手交	送付	ATM振込	その他・不明	合計
平成30年上半期	1	0	1	5	7
割合	14%	0%	14%	71%	100%
平成29年上半期	12	2	5	3	22
割合	55%	9%	23%	14%	100%



- 振り込め類似詐欺は、全体的に減少している。

### 【振り込め類似詐欺の主な手口】

○ **金融商品等取引**

実際には価値がない有価証券等について、電話やダイレクトメールにより虚偽の情報を提供し有価証券、又は有価証券のようなもの等を交付し、購入すれば利益が得られる等の名目及び名義貸しによるトラブル解決のための費用名目でだます手口

○ **ギャンブル必勝法情報提供**

冊子等により、虚偽の情報を提供し、情報料や会員登録料等の名目でだます手口

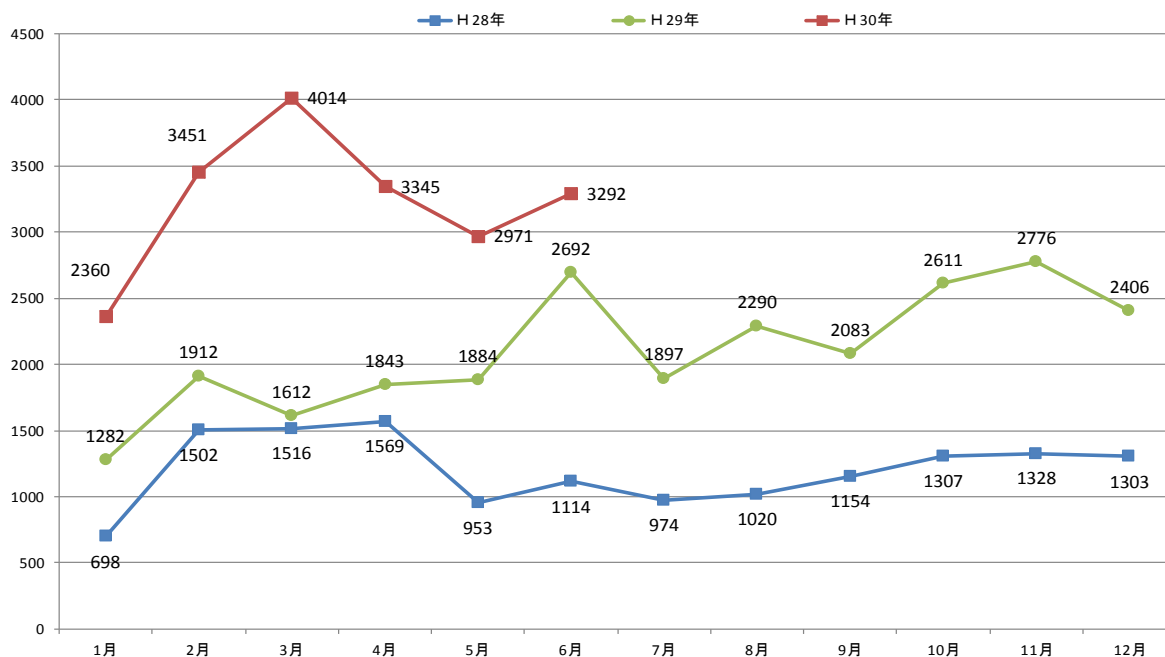
○ **異性交際のおっせん**

異性交際をおっせんする等の虚偽の情報を提供し、会員登録料や保証金等の名目でだます手口



## (7) 犯行予兆電話の通報状況

【犯行予兆電話通報件数（平成28年～平成30年6月末）】



○ 平成30年上半期の犯行予兆電話通報件数は、19,433件であり、前年と比べ急増している。

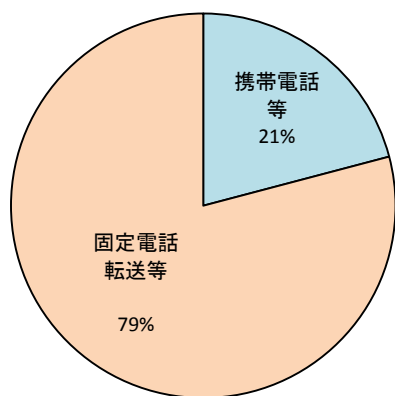
平成30年上半期 → 19,433件

平成29年上半期 → 11,225件

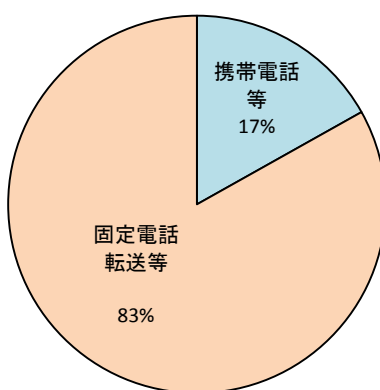
平成28年上半期 → 7,352件

## (8) 犯行利用電話の種別

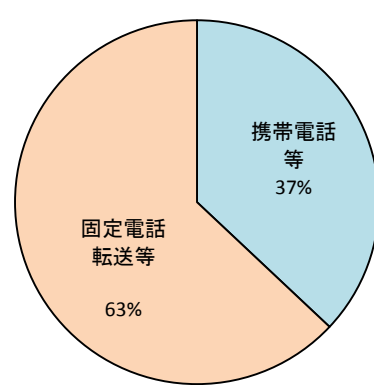
平成30年1月～6月



平成29年1月～6月



平成28年1月～6月



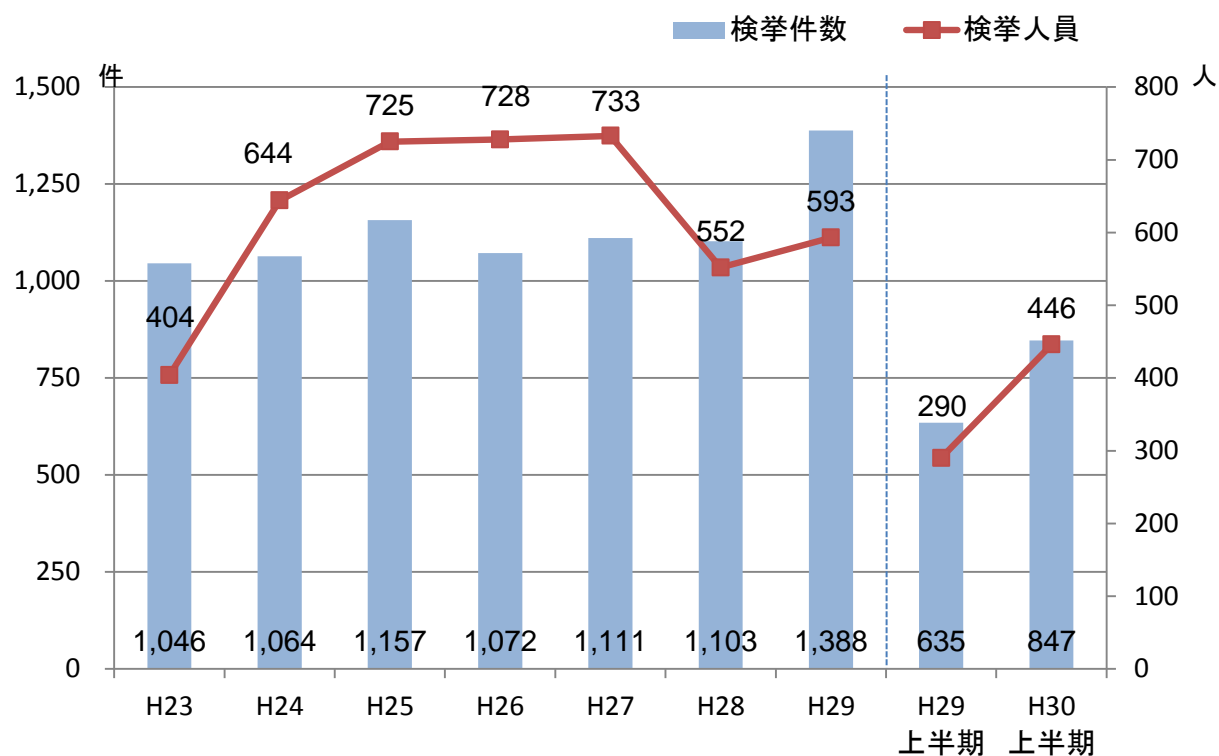
○ 平成30年上半期における犯行利用電話受案件数の割合は、固定電話転送等79%、携帯電話等21%であり、前年に比べるとほぼ変わらないが、平成28年上半期に比べると携帯電話等が減少し、固定電話転送等が増加している。

※ **固定電話転送等**とは、犯人が使用している固定電話や携帯電話からの発信を、インターネット上で電話転送し、被害者の電話に掛かってくる電話番号が『03、又は06』等からはじまる全国の固定電話番号や『050』からはじまる電話番号で着信表示させるもの。

## 2 検挙状況

### (1) 本犯検挙状況

特殊詐欺本犯：検挙状況



特殊詐欺本犯：類型別検挙状況

		オレオレ	架空請求	融資保証金	還付金等	振り込め類似	合計
検挙件数	平成30年上半期	527	166	62	65	27	847
	平成29年上半期	308	146	58	74	49	635
	前年比	+219	+20	+4	-9	-22	+212
	増減率	+71%	+14%	+7%	-12%	-45%	+33%
検挙人員	平成30年上半期	330	89	4	11	12	446
	平成29年上半期	190	75	0	7	18	290
	前年比	+140	+14	+4	+4	-6	+156
	増減率	+74%	+19%	-	+57%	-33%	+54%

○ 前年と比べ、検挙件数及び検挙人員は、ともに増加している。

## 特殊詐欺本犯：役割別検挙人員

	首魁	指示役	だまし役	出し子	受け子	見張り役	その他	合計
平成30年 上半期	5	24	75	13	244	28	57	446
割合	1%	5%	17%	3%	55%	6%	13%	100%
前年比	+2	+12	+21	+3	+65	+21	+32	+156

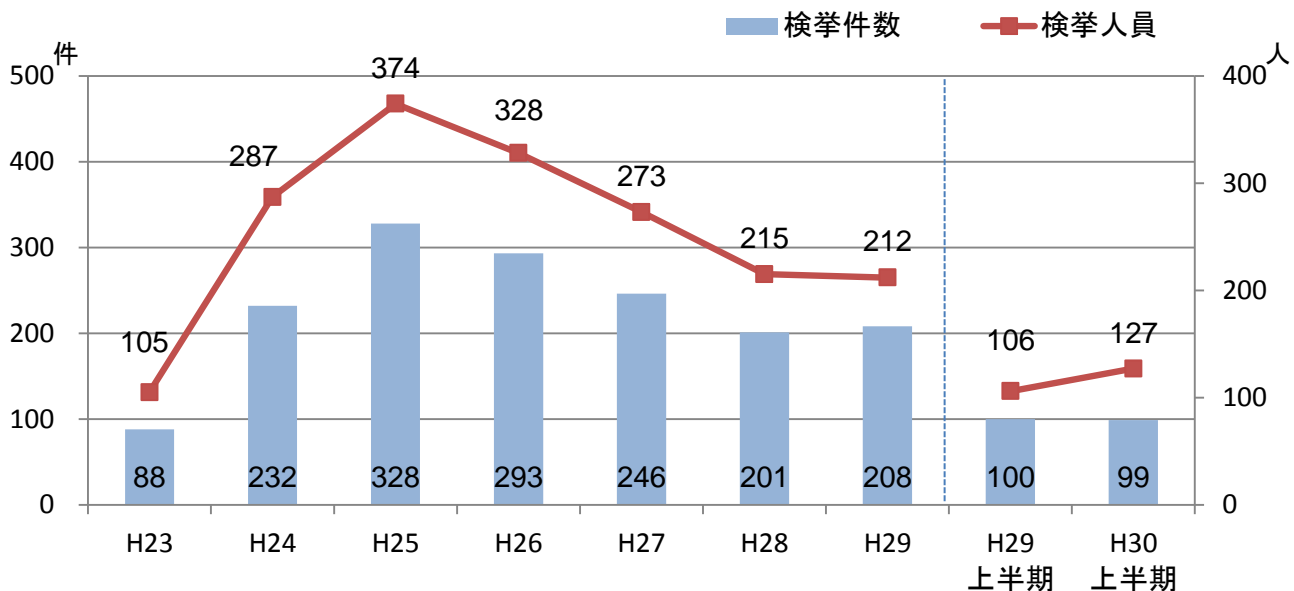
- 「受け子」の検挙人員は、全体の55%を占めている。
- 犯行拠点（アジト）の摘発は、18箇所、68人で、前年と比べ、摘発箇所は同件数だが、検挙人員は7人増加している。
- 検挙人員のうち、137人（31%）が暴力団構成員等である。

## 特殊詐欺本犯：年代別検挙人員

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
平成30年 上半期	141	196	70	20	15	3	1	446
割合	32%	44%	16%	4%	3%	1%	0%	100%
前年比	+93	+58	+2	-1	+5	-1	±0	+156

- 検挙被疑者は、10代から30代で、全体の91%を占め、60代以上の被疑者は4人(1%)となっている。
- 少年（10代）の被疑者は141人で、内訳は「受け子」が96人（68%）、「見張り役」が12人(9%)となっている。

## 現場設定（だまされた振り作戦）による検挙状況



- だまされた振り作戦による「現場設定検挙」は、前年と比べ、検挙件数は1件のみ減少したものの、検挙人員は増加している。

## (2) 助長犯検挙状況

### 特殊詐欺助長犯：類型別検挙状況

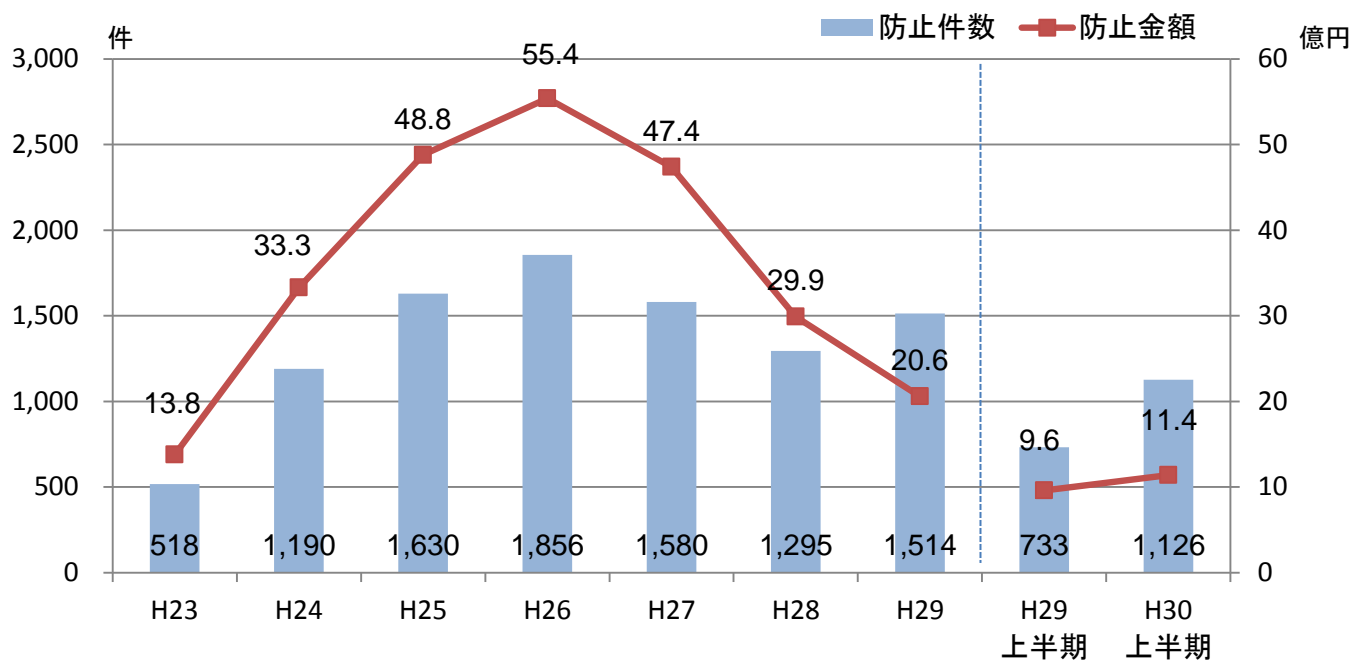
		口座開設詐欺	携帯電話 契約詐欺	犯罪収益移転 防止法違反	携帯電話不正 利用防止法違反	合計
検 挙 件 数	平成30年 上半期	57	20	163	4	244
	平成29年 上半期	84	21	148	4	257
	前年比	-27	-1	+15	±0	-13
	増減率	-32%	-5%	+10%	-	-5%
検 挙 人 員	平成30年 上半期	35	22	160	5	222
	平成29年 上半期	60	30	158	6	254
	前年比	-25	-8	+2	-1	-32
	増減率	-42%	-27%	+1%	-17%	-13%

- 助長犯全体の検挙件数及び検挙人員は、減少しているものの、犯罪収益移転防止法違反の検挙件数及び検挙人員は、増加している。

### 3 未然防止等の状況

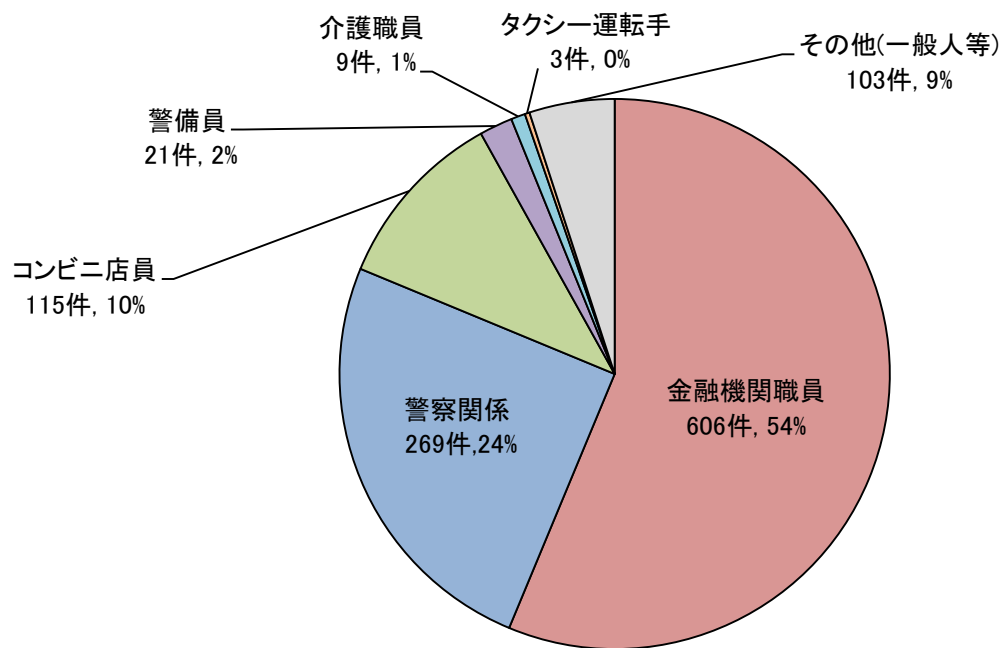
#### (1) 未然防止（全体）状況

特殊詐欺：未然防止の推移



○ 前年に比べ、未然防止件数及び防止金額は増加している。

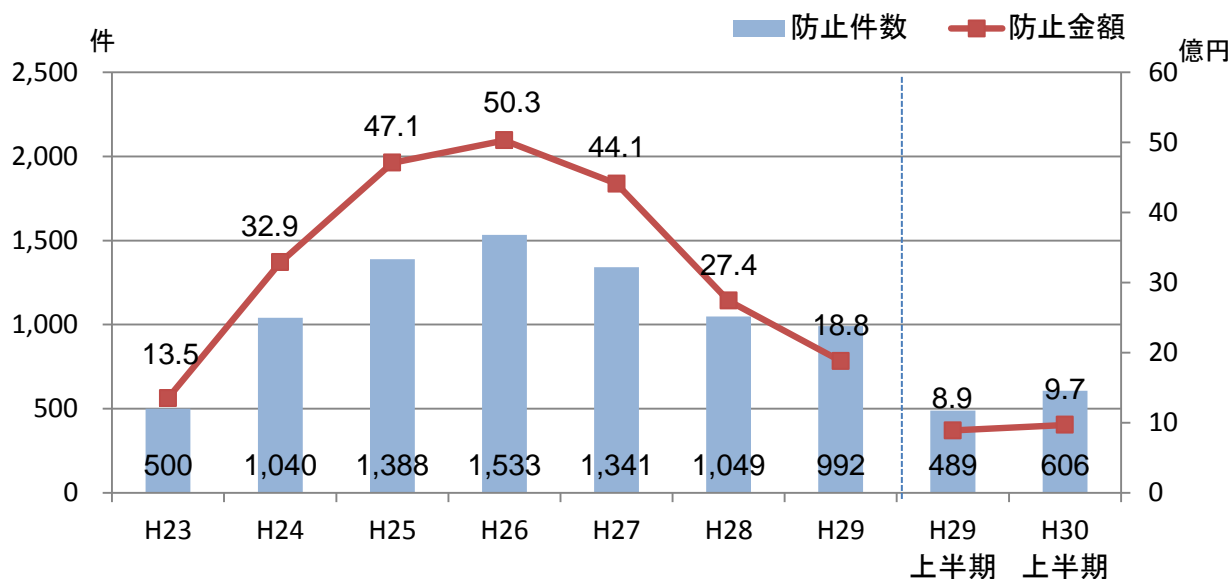
未然防止者職種別未然防止状況



○ 金融機関職員による未然防止が、全体の54%を占めている。

## (2) 金融機関による未然防止状況

### 金融機関による未然防止の推移

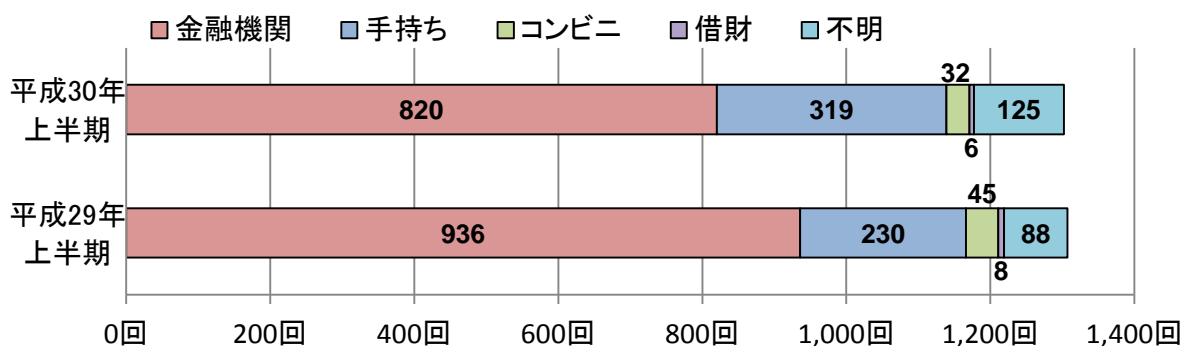


○ 未然防止件数及び防止金額は、いずれも前年と比べ、増加している。

## (3) 被害金の調達（全体）状況

### 特殊詐欺：被害金の方法別調達状況

	金融機関	コンビニ	借財	手持ち	不明	合計
平成30年上半期	820	32	6	319	125	1,302
割合	63%	2%	0%	25%	10%	100%
平成29年上半期	936	45	8	230	88	1,307
割合	72%	3%	1%	18%	7%	100%

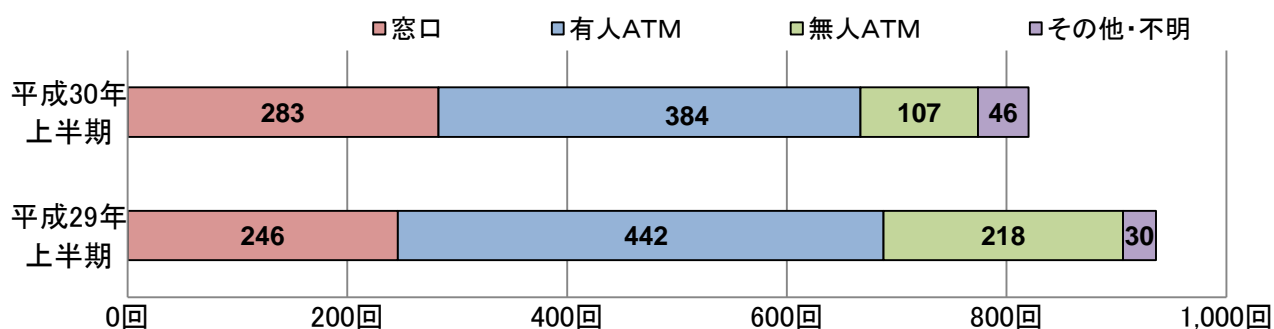


○ 金融機関での調達は減少しているものの、全体の63%を占め、最も多くなっている。

## (4) 金融機関における調達状況

金融機関における被害金の方法別調達状況

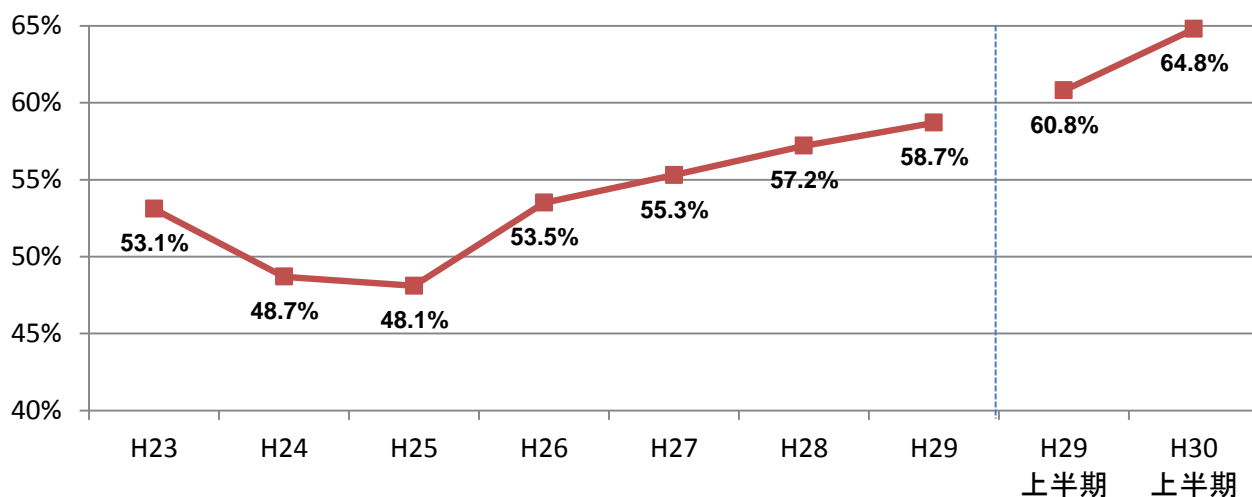
	窓 口	A T M			その他 不明	合 計
		有人ATM	無人ATM	小 計		
平成30年上半期	283	384	107	491	46	820
割合	35%	47%	13%	60%	6%	100%
平成29年上半期	246	442	218	660	30	936
割合	26%	47%	23%	71%	3%	100%



- 前年と比べ、ATMでの調達回数が減少し、窓口での調達回数が増加しているもののATMでの調達の割合は全体の60%を占めている。

## (5) 金融機関窓口における阻止率

金融機関窓口における阻止率の推移



※ 阻止率 = 窓口での未然防止件数 (520件) ÷ (窓口での未然防止件数(520件) + 窓口での引き出し件数(283件))

- 前年と比べ、金融機関窓口における阻止率は、高くなっている。

### 【現金調達時における「被疑者の指示」】

○「金融機関窓口」で、預貯金の引き出し、または定期預金等の解約をする理由として、次のように答えるよう指示している。

- ・ リフォーム代、または家を建てる頭金として
- ・ 家具を買うため
- ・ 旅行に行くため
- ・ 夫（妻）の手術費用
- ・ 息子（孫）の結婚費用

※ 最近の傾向では、「自分のお墓を建てる、今後のために自分の手元に置いておきたい」との指示も増加傾向にある。



## (6) 未然防止の好事例

### 1 金融機関職員による未然防止

防止者は、窓口業務中、被害者（70代・女性）が自動車の見積書を持参して「車の購入費としてすぐに息子に渡す」と申し出たことに対応した際被害者の慌てている様子と現金にこだわる点から詐欺を疑い、警察に通報して被害を未然に防止した。

### 2 コンビニエンスストア店員による未然防止

防止者は、レジで接客中、常連客である被害者（70代・女性）が、今まで購入したこともない高額の電子マネーを買おうとしたため、用途を尋ねたところ、訴訟を起こす旨のはがきが届いたとの言動を得たので詐欺を疑い、警察に通報して被害を未然に防止した。

### 3 マンション管理人による未然防止

防止者は、被害者（70代・女性）が、いつものんびりしているのに、慌てた様子でマンションのロビーを出て行こうとしていたのを見かけ、声をかけたところ、被害者が「甥っ子が大変なの。駅までお金を渡しに行く。」と答えたため詐欺を疑い、警察に通報して被害を未然に防止した。

### 4 ATM見守り隊による未然防止

ATM見守り隊員として、日頃から署員による教養を受けている防止者は、自主的に自宅最寄駅付近の無人ATMを警戒中、携帯電話で通話しながらウロウロしている被害者（70代・女性）を発見し、声かけするとともに近くにいた警察官に知らせて被害を未然に防止した。

### 5 会社員による未然防止

防止者は、深夜のオフィス街を通行中、公衆電話で通話中の被害者（70代・女性）を見かけ、時間帯や場所柄、及び被害者の訛った話し方に違和感を感じたため事情を聞いたところ、関西から息子に現金を渡すために上京してきたと答えたことから詐欺を疑い、交番に同行して被害を未然に防止した。